

《資料館便り》

平成 26 (2014) 年

1 2 月号

石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

『水郡線』全線開通80周年と石川「長石」!



当館 1 階の長石群

「長石」と「水郡線」の深い結びつきとは・・・

ご存じのように、水郡線は水戸と郡山を結んでいます。実は、大正時代末には、茨城県内では一部が完成していました。しかし、県内では、石川町内と里白石間の工事

「日本三大ペグマタイト鉱物産地 石川町」として、当歴史民俗資料館 1 階の常設コーナーには、左の写真にあるような大きな石が展示されています。これは、「長石」とよばれる鉱物の結晶です。角ばったその姿は、まるで古代ギリシャやローマの神殿の石柱の一部ようですが、まったく自然のままの形です。最大のもは約 1 トンの重量があります。長石は昔から私たちの生活には欠かせない重要な資源でした。

(現在展示されている長石では、国内最大のもです。脇にあるコーヒークップと比べてください。)

「瀬戸物」の表面は、ツルツルしたガラス質になっていますが、その原料はこの「長石」を原料とした釉薬(うわぐす)によるものです。つまり、この長石なしには焼き物は完成しないと云えます。



故 根本 正 氏 (元茨城県選出の代議士：水郡線建設に尽力) の顕彰会の皆様が来館。長石のコーナーを参観

昨年、岐阜県多治見市の陶芸家が御二人、この長石をご覧になるため来館されています。

残念ながら、たくさんあった石川の鉱山も、現在はすべて閉山してしまいましたが、「石川長石」は、水郡線全線開通によってわが国の窯業を影で支える存在になったといえるでしょう。(詳しくは、「石川町史 自然編」をご覧ください。)

が難航し、明治時代以来の「悲願」であった全線開通がようやく実現したのは、1934 年 (昭和 9 年) 12 月 4 日のことでした。

これにより、石川の人々の生活が大きく変わりました。「長石」はそれまで、東北本線矢吹駅まで、馬車などによってほそぼそと運ばれていましたが、水郡線の開通によって、直接消費地に輸送できるようになったのです。特に、わが国最大の窯業地帯である東海地方 (愛知県・岐阜県) には大量に出荷されました。

現在も、愛知県瀬戸市や岐阜県多

治見市の窯業関係者には、「石川長石」として、その品質の良さを記憶して下さる方々がいらっしゃるのです。実際に、



「水郡鉄道」碑・磐城石川駅前

いしかわの「お宝」 3

「資料館便り」では、町に伝えられて来た貴重な文化財や、鉱物や動植物などの天然記念物を紹介いたします。

～世界で初めて、石川で発見された「石」～

いしかわせき
「石川石」(資料館蔵 ※写真とは別の標本が福島県の天然記念物に指定されています。)



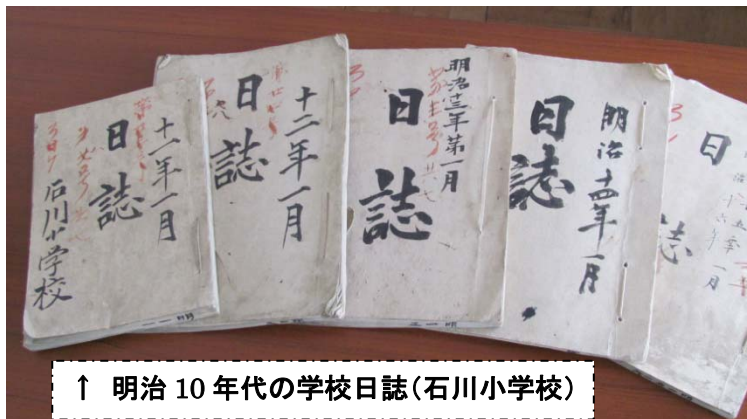
「石川」の名前がついた石、「石川石」。現在世界では約4600種程の鉱物が確認されています。その中に、当地方の名を冠した鉱物が含まれています。それが「石川石」です。

学法石川高等学校、初代校長の^{もりよしお}森嘉種氏はその著『福島県鉱物誌』(大正13(1924)年編:未刊行)で、「石川石ハ世界新発見ノ甚ダ珍シキ鉱物ナリ。是レハ編者ノ発見ニ依ル・・・」と述べています。

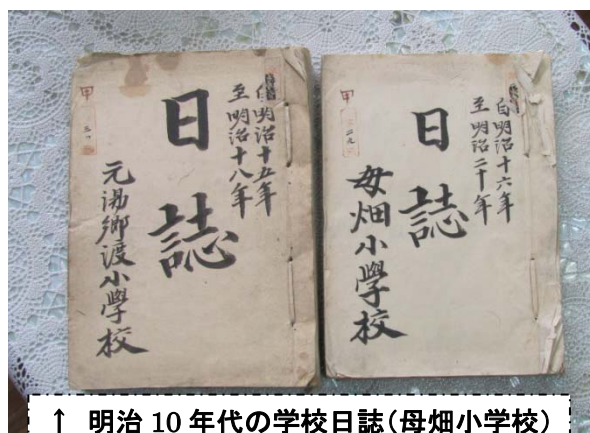
森氏が石川町内で発見したこの鉱物を、大正11(1922)年当時わが国を代表した分析化学者である、東京帝国大学の柴田雄次、木村健二郎両博士が研究し、新鉱物であるとして論文を発表したのです。命名は同じく東京帝国大学の神保小虎博士でした。その後、この分析結果については議論がありましたが、現在では新鉱物として認められています。

「鉱物の町 石川」として、世界で初めてこの町で発見され、しかも「石川」の名が付いた石があることに強い「誇り」を感じます。

学校所蔵「古書類」調査進む



↑ 明治10年代の学校日誌(石川小学校)



↑ 明治10年代の学校日誌(母畑小学校)

小中学校の統合にともない、閉校する各学校が所蔵する古書類の調査が進んでいます。

調査の目的は、それらの古書類を学校の資料としてだけでなく、町全体の歴史・文化遺産として大切に保管し、後世に伝えるためです。

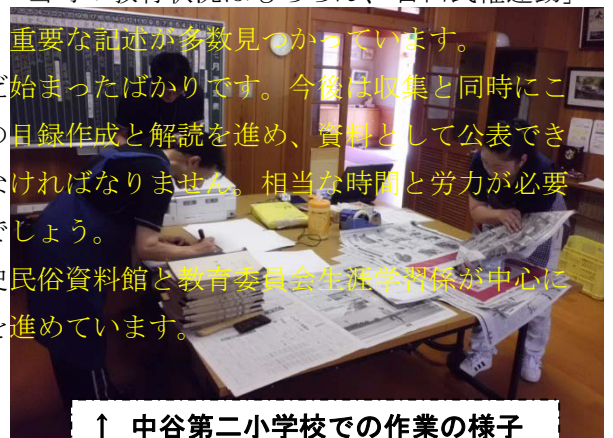
特に小学校は、どの学校も140年前後の歴史をもっていて、その古書類には町全体にかかわる貴重な記録が残されているのです。

当時の教育状況はもちろん、「自由民権運動」

についても、重要な記述が多数見つかっています。

調査はまだ始まったばかりです。今後は収集と同時にこれらの書類の目録作成と解説を進め、資料として公表できるようにしなければなりません。相当な時間と労力が必要となることでしょう。

現在、歴史民俗資料館と教育委員会生涯学習係が中心になって作業を進めています。



↑ 中谷第二小学校での作業の様子